

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 華陽フロンティア高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和5年2月2日(木) 13:30~15:30
- 3 開催場所 華陽フロンティア高等学校 仮設校舎 管理棟2階
- 4 参加者

会長	安田 和夫	岐阜聖徳学園大学教育学部 教授
副会長	廣瀬 富久夫	本校同窓会 会長
委員	臼井 悟	鶉自治会連合会 会長
	田内 恵美	本校校友会 会長
	前田 貴子	地域創生キャリアプランナー
	南谷 東子	人権擁護委員
	森 芳	本校PTA会長
学校側	鵜飼 陽一郎	校長
	桑原 聡	副校長
	松野 聡美	事務部長
	中原 泰男	教頭(定時制課程)
	笠井 寛	教頭(通信制課程)

5 会議の概要(協議事項)

- (1) 令和4年度の取り組みに関する報告
- (2) 意見交換

○ 令和4年度の取り組みについて

- 意見1: 生徒一人一人の思いを大切にしている。生徒も先生を信頼している。今年度の取り組みを今後も続けてほしい。
- 意見2: 校長先生を中心に、どの先生も生徒一人一人を大切に、良い人間関係を構築している。年々生徒が多様化し、様々な課題もあると思うが、これからも、人と人との関係を大切にす姿勢を継続してもらいたい。
- 意見3: どの生徒もととても明るい。これは先生たちの取り組みの成果である。現在の取り組みを継続し、生徒の自己肯定感を高めてもらいたい。そのことが、この学校を卒業してからも自信を持って生きていけることにつながる。
- 意見4: 生徒は色々な環境の中で頑張っている。そのような生徒一人一人の状況をしっかりと理解し支援できている。個に応じた指導を大切にしている点が良い。
- 意見5: 個々の生徒の課題を把握し、学校として、社会的自立につながる教育に取り組む姿勢が良い。生徒が自己肯定感を高めるためには、適切な自己評価ができることも大切である。

意見6：高校入学まで、しっかりと学校生活を送れなかった生徒もいる。社会とのつながりが無いと、自分を認めることは難しい。卒業後も視野に入れて、学校はソーシャルスキルトレーニングに取り組んでいる。とても良いことである。

意見7：家庭や学校以外の経験が、自己肯定感を高めるきっかけとなる。地域創生キャリアプランナーやハローワークジョブサポーターの活用は、良い取り組みである。また、大学によっては、就労関係機関と協力し、1日だけのアルバイト（「1日バイト」）という取り組みをしている。大学の取り組みなども参考にして、社会的な自立を含めて、個に応じた支援体制の充実を図ってほしい。

○ ICT教育について

意見1：社会のデジタル化が進むなかで、ICT教育は大切である。学校として取り組むためには、ICT機器の整備は必要不可欠である。しっかりと機器整備をしてほしい。

意見2：ICTを活用することで、様々なレベルの生徒に応じた指導ができる。そのためには、現在、岐阜県が推進している1人1タブレットは良い取り組みである。定時制課程や通信制課程の生徒にこそ、1人1タブレットが必要である。しっかりと環境整備してもらいたい。

意見3：今は、タブレットを活用した授業が高く評価されている。社会がどんどんデジタル化していく現状を考えれば当然である。しかし、昔ながらの黒板とノートによる授業も、書くことによる記憶の定着という点では優れているのではないか。ICT機器の活用は大切なことだが、生徒にとって、どのような学習方法が良いのか今後も研究してほしい。

意見4：タブレットの修理代金が、個人負担になると聞いた。どんなに注意してもアクシデントは発生する。県全体で保険に加入するなどの対応策を検討してほしい。

意見5：タブレットは、学校の備品なので大切に扱うのは当然である。しかし、どんなに大切に扱っても、物は壊れることがある。経済的に余裕のない家庭の生徒は、安心してタブレットが使えない。県は、様々な経済状況の生徒がいることも考慮してもらいたい。

意見6：学校のICT教育はかなり進んでいるが、民間の通信添削業者の取り組みに比べるとまだ改善の余地があるように感じる。より一層の研究をお願いしたい。

意見7：大学では、デジタル管理が進んでいて授業登録等様々なことをスマートフォンやノートパソコンで行っている。ICT機器の活用経験が少ない生徒にとっては、本当に大変である。高校時代のICT機器活用経験は、とても大切である。

6 会議のまとめ

- ・今年度の取り組みについて、活発な意見交換を行った。
- ・本校の教育活動に寄せる期待や要望を多く聴くことができる貴重な機会となった。
- ・委員の意見を来年度の取り組みに活かしていきたい。